

国際化学肥料ニュース（2022年1月）

2

肥料業界の2022年1月動態

- * ノルウェーの Yara 社はアメリカと EU が実施しているベラルーシ産加里の輸出制裁に応じ、ベラルーシ産加里の調達量を縮小し、2022年4月1日からベラルーシ産加里を完全に購入しないことを発表した。

- * 1月7日、中国とパキスタンが15万トン尿素の輸出を契約した。1月に5万トンを輸出し、その価格はCFR610ドル/トンに設定する。2月に10万トンを輸出し、価格が未定である。これは中国政府が友好国への援助性輸出行動で、化学肥料の輸出「法定検査」を緩めたものではないとも強調した。

- * 1月第1週、北米の尿素相場が大幅に下落した。1月7日の Green Markets 北米指数が12%も下落し、2009年以来最大の日下落幅である。その理由は12月23日開札されたインドの尿素国際入札にインド側が115万トンを購入して、3月まで新しい尿素を購入する必要がないことに加え、南米も化学肥料の需要が一段落して、欧州の天然ガス価格が下落し、尿素の生産量が回復されるだろうとの観測がある。すでにアルジェリア、エジプト、ナイジェリアと中東には大量の尿素在庫があり、CFR ブラジルが820ドル/トン、主要輸出国の尿素 FOB 価格が軒並みに850ドル以下になった。

- * 世界の尿素市場はインド IPL 社の最新入札結果の影響を受け、2022年に入ってから大幅な軟調を示している。中東では FOB860ドル/トン以下に下がり、マレーシアも1月上旬に2件の尿素も同レベルで契約した。ロシアとウクライナ産尿素はさらに低く FOB810~820ドル/トン以下に下がった。エジプトの大粒尿素も FOB850ドル/トンで売り出すが、買手が見つからない。アメリカの FOB Nola 価格が12月より120ドル安く、615ドル/トンに下がったとの情報がある。

- * 1月第2週（10~16日）の尿素国際相場が下がり続けている。12月下旬インド IPL 社の最新入札が終了してから、ほかの主要市場の需要はまだ出ていないため、世界の尿素市場は調整局面に入り、弱気な感情が市場をまん延している。

西半球では、エジプト産尿素が1月出荷分を FOB800ドル/トンで売り出しているが、買手が見つからない。アメリカの FOB Nola 価格が1月1週目からさらに100ドルも下がり、570ドル/トン台になり、CFR ブラジルも700ドル/トン台まで下がった。ロシアやウクライナ産尿素の FOB バルト海の価格がまだ強気で780ドル/トンを要求している。

東半球では、中国尿素の輸出がまだ厳しく制限されている局面に東南アジア産尿素が若干の値下げに留まっている。

* 中国産リン安の輸出制限がやや緩くなっている。2021年12月から続々少量のDAP輸出が許可された。1月上旬に30数万トンDAPが「法定検査」をパスして、輸出に備える噂があるが、これらのDAPはほとんど昨年10月に税関に輸出を申請している案件である。但し、1~3月は中国の春シーズン肥料需要期で、輸出が許可されてもその数量に期待できないという観測もある。

* 中国税関の速報によれば、2021年12月中国化学肥料輸出量が前年同期より42%減の167万トン、その内訳は尿素が93.1%減の4万トン、硫安が46%増の146万トン、DAPが93.9%減の3万トン、MAPが80%減の3万トン。中国政府の「法定検査」は化学肥料の輸出制限に効果が表れた。一方、2021年1~12月中国化学肥料輸出量が13.1%増の3299万トン、そのうち尿素が2.9%減の529万トン、硫安が23%増の1065万トン、DAPが9.1%増の625万トン、MAPが49.6%増の379万トン。

2021年12月中国の化学肥料輸入量が前年同期より45.6%減の37万トン、その内訳は塩化加里が48.2%減の29万トン、NPK化成肥料が22.3%減の7万トン、塩化加里輸入量の落ち込みが目立つ。一方、2021年1~12月中国の化学肥料輸入量909万トン、そのうち塩化加里輸入量が13.3%減の757万トン、NPK化成肥料輸入量が14%減の121万トン。塩化加里の輸入大幅減は中国国内塩化加里不足を引き起こし、価格の高騰の最大要因となった。

* アメリカの調査会社DTNによれば、2022年1月第1週(3~9日)のアメリカの化学肥料小売価格が上昇し続けているが、その上昇幅が小幅に留まった。各主要肥料の平均小売価格は次の通りである。無水アンモニア1430ドル/トン(史上最高値)、尿素913ドル/トン(史上最高値)、UAN28(尿素硝安液肥、N含有量28%)584ドル/トン(史上最高値)、YAN32(尿素硝安液肥、N含有量32%)679ドル/トン(史上最高値)、DAP863ドル/トン、MAP931ドル/トン、塩化加里807ドル/トン。窒素肥料が軒並み史上最高値を記録した。

* 1月第3週(17~23日)の国際尿素相場は下落が続いている。その理由は、シーズンピークに近づき、市場では尿素の購入をできるだけ長く延期するバイヤーが多く、オファーがさらに減ったためである。

西半球ではバルト海、中東、北アフリカの一部のメーカーは、FOB価格を12月にピークに達した時点より約200ドル/トン低い価格でバイヤーを呼び止めようとしている。バルト海からの報告によれば、昨年12月にFOB900ドル/トン台に達した価格が660

ドル／トンまで下がった。アメリカも FOB Nola の価格は 545 ドル／トンに下がり、前週よりさらに約 30 ドル／トン安くなった。

東半球では、インドが 2～3 月に新の尿素国際入札が行わないと推測され、バイヤーは絶対に必要になるまで、または価格が安定するまで尿素の購入を予約しない。中国の尿素輸出規制が続いているが、その影響が次第に弱くなっている。

- * 1 月第 4 週（24～30 日）の国際尿素相場は週の初めに小幅に下がったが、週の後半に持ち直した。その理由はインド IPL 社が 2 月に尿素の国際入札を再開するニュースが流されて、尿素生産者は 2 月から 3 月の重要な潜在的輸出先を確保できるだろうという楽観的な雰囲気が高まってきたためである。このニュースの直後に買い意欲が大幅に改善し、中東と北アフリカの生産者は在庫を一掃できるようになり、トレーダーも 1 月～2 月上旬のポジションを確保するように走った。

エジプト産尿素は週の初めに FOB600 ドル／トンまで下がったが、週の後半に 620 ドル／トンまで持ち直した。アルジェリア産尿素も EU とアメリカからの問い合わせが相次いで FOB620～640 ドル／トンで推移している。なお、週末には多くのバイヤーがより高い価格でボリュームを取得するために市場に参入し、2 月と 3 月の出荷分では FOB640～700 ドル／トンに上昇した報告がある。

- * ロイター通信の報道によれば、カナダの Nutrien 社の CEO はアメリカと EU がロシアとベラルーシへの加里輸出の制裁措置に応じて、同社は今後数年間で生産量を最大 29% 増加させる可能性があると言った。現在、Nutrien 社は世界の加里販売量の 19% に相当する約 1400 万トンを生産しているが、生産量を増やすための最初のステップとして、2022 年下半期に生産量を 70～100 万トン増加させる可能性があり、今後数年間でカナダのサスカチュワン州で年間生産能力最大 400 万トンの休止加里鉱山を再開する可能性があると言った。しかし、ロシアの Uralkali 社とベラルーシの BPC 社は合わせて世界の加里販売数量の 3 分の 1 以上を占めて、その穴を埋めることが簡単ではない。
- * サウジアラビアの Ma'aden 社はバングラデシュ農業開発公社（BADC）との間に 2022～2023 年のリン酸肥料供給契約を更新した。BADC は肥料を輸入する国営企業である。
- * 1 月末、中国側は世界大手加里メーカーとの間に行なっている 2022 年塩化加里輸入基本契約に関する交渉に於いて、加里大手メーカーは CFR600 ドル台前半／トンを要求している。この価格が昨年秋に行った最初の交渉より約 100 ドル／トン高くなっている。中国側は引き続き CFR400 ドル台後半／トンを応酬する模様。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 2021年12月31日、中国資本のラオス開元鉱業はラオスのカムムアン県に第2期150万トン塩化加里プロジェクトのフェーズ1（年間生産能力50万トン塩化加里）の着工式を行った。ラオス開元鉱業はすでに第1期50万トン塩化加里プロジェクトを完成し、生産を開始して、第2期フェーズ1は2023年に稼働する計画である。
- * オーストラリアのCBH社は本拠地の西オーストラリア州Kwinanaに新しい粒状肥料及び尿素硝安液肥（UAN）の貯蔵施設の建設を開始すると発表した。その計画は55000トンの粒状肥料を貯蔵する倉庫、既存のKwinana穀物ターミナルの突堤にUAN船の荷降ろしと移送のパイプライン、2つの16,000トンのUAN貯蔵タンクを建設し、2023年完成する予定である。
- * カナダのFox River Resources社はオンタリオ州ハースト近郊にある同社100%所有のMartisonリン酸プロジェクトに関する予備経済評価（PEA）の最新情報を提供した。当該リン酸プロジェクトは年間400万トンリン鉱石の採掘と選鉱能力、50万トンりん酸と15万トンスーパーリン酸、48万トンMAPと25万トンDAPなど計95万トン化成肥料の生産能力を計画している。
- * ブルネイのBrunei Fertilizer Industries（BFI）社は初めての尿素プロジェクトが完成し、稼働し始めたと発表した。このプロジェクトはSungai Liang工業団地（SPARK）にあり、2018年5月着工、2021年第4四半期完成、2022年1月から正式稼働する。設計生産能力はアンモニア2200トン／日、年間136.5万トン尿素である。ブルネイは天然ガスの主要な生産国および輸出国で、この尿素プロジェクトは石油化学産業の発展とともに国の経済を多様化するためのブルネイ政府の長期的な開発戦略によるものである。
- * オーストラリア連邦政府はStrike Energy社が申請しているHaber尿素肥料プロジェクトの計画を許可した。このプロジェクトは西オーストラリア州にアンモニアと尿素工場を建設し、クリーン水素と天然ガスを原料にして年間140万トン尿素を生産するものである。

その他

- * ロシアのEuroChem社はブラジルの大手肥料販売業者であるFertilizantes Heringer SAの51.48%の株式を購入する契約に署名したことを発表した。Fertilizantes Heringer

社はブラジルに 14 カ所の肥料流通センターを持ち、年間 150 万トン肥料を販売する実績がある。近年、EuroChem 社はブラジルの肥料事業に積極的に参入して、2020 年 8 月 Fertilizantes Tocantins (FTO) を買収し、2021 年 8 月ミナスジェライス州にあるリン酸塩プロジェクト Serra do Salitre を買収する契約を締結した。

- * ノルウェーの Yara 社はスウェーデンの肥料販売会社 Lantmännen 社と商業協定を結び、Yara 社のグリーンアンモニアを原料とする化石燃料を全く使用しない肥料を Lantmännen 社がスウェーデンの農家に販売する。
- * 2021 年 12 月 13 日、国連食糧農業機関 (FAO) と国際肥料工業協会 (IFA) が覚書を締結した。その内容は FAO と IFA が協力して、食品の安全性と肥料の安全な使用を向上させるために開発された肥料コードの世界的な普及及び特定の地域における規範の規定の実現可能性、実用性、および実施を評価することに加え、土壌肥沃度の評価、肥料の持続可能な使用、証拠に基づく意思決定を支援するための FAO 統計の継続的な改善など、持続可能な食糧と農業の分野における協力を促進する。
- * マレーシアの PETRONAS Chemicals Group Berhad (PCG) は、マレーシアのクダ州グルンに年間生産能力 6 万トンのメラミン工場を建設し、東南アジアで唯一のメラミン生産者となることを発表した。このプロジェクトは子会社である PETRONAS Chemicals Fertilizer Kedah (PCFK) が生産した尿素を原料にしてメラミンを製造する。2024 年に稼働開始という計画である。
- * 中国税関の速報によれば、2021 年中国が外国から 1 億 6453.9 万トン食糧を輸入し、前年より 18%も増加した。輸入された食糧のうち、大豆が 3.8%減の 9651.8 万トン、トウモロコシが 150.9%増の 2835 万トン、大麦が 54.5%増の 1248 万トン、小麦が 16.6%増の 977 万トン、モロコシが 95.84%増の 942 万トン。食糧の輸入量がすでに国内食糧総生産量の 24%に相当して、世界最大の食糧輸入国である。ほかに食用油も 1039.2 万トン輸入した。
- * ロイター通信の報道によれば、リトアニア国営鉄道委員会は政府の承認を得ない限り、ベラルーシ産加里の輸送を 2 月 1 日から停止することを決定した。内陸国のベラルーシは、主にリトアニアのクライペダ港を利用して、インド、中国、ブラジルなどの顧客に加里を輸出している。EU とアメリカによるベラルーシ産加里輸出の制裁は 2021 年 12 月 8 日に発効したが、その後もベラルーシ産加里の輸送はリトアニア経由で継続されていた。

ベラルーシ大統領はリトアニアの禁輸措置に対して、ロシアを経由して輸出を続けると宣言したが、ベラルーシの同盟国であるロシアにはベラルーシの年間1,250万加里生産量に対して、その輸出を支援するには十分な輸送能力と港湾容量を持っていない。

- * ロシアの **EuroChem** 社はオーストリアの **Borealis** 社の窒素肥料部門を買収するための独占交渉に入ったと発表した。**Borealis** 社は、ヨーロッパを代表する肥料生産者の1つで、フランスに3つ、ドイツとオーストリアにそれぞれ1つ、合計5ヶ所の窒素肥料工場を有し、ヨーロッパ全体に50ヶ所以上の流通拠点があり、年間約400万トンの製品（約80万トンの工業用窒素溶液と約15万トンメラミンを含む）を販売している。2020年の販売実績は販売量390万トン、売上高9億800万ユーロである。
- * スイスの **Casale** 社はウズベキスタンの **JVLLC** 社と新しいメラミンプラントを導入するための合意に署名した。このメラミンプラントはウズベキスタン **Ferghana** 県のフェルガナアゾット工業団地に設置し、尿素を原料にして年間6万トンメラミンを生産する。